

目次

第1章 調査の内容	1
第1節 調査の経緯と目的	3
第2節 調査の設計	4
2-1 調査参加者	4
2-2 調査地域	4
2-3 調査期間	4
2-4 調査方法	4
2-5 調査項目	4
2-6 調査実施委託機関	5
2-7 調査方法と調査内容の検討	5
第3節 調査実施手順	7
3-1 調査参加者募集方法	7
3-2 調査員募集	8
3-3 調査員説明会開催	8
3-4 調査会場の設置	8
3-5 面接調査手順	8
第4節 分析の方法	10
第5節 本調査の限界	11
第2章 調査結果のまとめ	13
第1節 暴力被害の実態	15
1-1 身体的暴力	15
1-2 精神的暴力	17
1-3 性的暴力	25
第2節 暴力被害が与える影響	28
2-1 女性の身体への影響	28
2-2 女性の精神への影響	31
2-3 女性の性と生殖への影響	33
2-4 子どもへの影響	33
第3節 暴力下の女性	36
3-1 張り詰めた状態	36
3-2 生命の危機と殺意	36
3-3 社会的孤立	38
第4節 被害が潜在する理由	39
4-1 被害者本人にかかわるもの	39
4-2 加害者にかかわるもの	46

4-3	被害者の周囲の人にかかわるもの	49
4-4	職務関係者にかかわるもの	51
第5節	加害者の実像	53
5-1	加害者のタイプ	53
5-2	被害者以外の人に対する暴力	54
5-3	アルコール・薬物依存・精神障害との関連	58
第6節	暴力を振るう理由	60
6-1	暴力のきっかけ	60
6-2	暴力の背景にあるもの	62
6-3	加害者の育った環境	66
第7節	女性が逃げる時	69
7-1	別れを決意する	69
7-2	逃げる準備をする	73
第8節	逃げる際に女性が利用した支援	77
8-1	フォーマルな支援	77
8-2	インフォーマルな支援	80
第9節	暴力後の生活	84
9-1	加害者の追及とその恐怖	84
9-2	離婚することの困難	86
9-3	女性が自立することの困難	87
9-4	暴力からの逃避で女性が失うもの	88
第10節	求められる支援体制	90
10-1	既存の制度による不都合	90
10-2	関係施設に対する不満	93
10-3	職務関係者の対応への不満	95
10-4	支援機関の充実への要望	99
第11節	非暴力社会への取組	101
11-1	社会一般にある通念	101
11-2	広報・啓発の必要性	101
11-3	情報の重要さ	103

第3章 調査参加者の属性 105

第1節	調査面接時の調査参加者の状況	107
1-1	調査地域	107
1-2	調査参加者の現在の年齢	107
1-3	調査参加者の国籍	107
1-4	調査参加者の現在の同居家族	107
1-5	調査参加者の現在の職業	108

第2節	加害者との関係	109
2-1	加害者との現在の婚姻関係	109
2-2	加害者との交際期間	110
2-3	最初の暴力の時期	110
2-4	現在の暴力	111
2-5	別れた時期	111
2-6	当時の職業	112
第4章	考察	119
第1節	夫・パートナーからの暴力の実態	121
第2節	潜在する被害	124
第3節	暴力を振るう加害者	128
第4節	構造的問題としての把握	131
第5節	求められる支援のあり方	133
第6節	まとめ	136
座長所感		139
付録		145
付録Ⅰ	調査関係書類	147
付録1	調査票Ⅰ（単純集計結果付き）	147
付録2	GHQ得点表	151
付録3	調査票Ⅱ（単純集計結果付き）	153
付録4	「夫・パートナーからの暴力」リスト	163
付録5	調査票Ⅱ カード（当時の心理状況）	164
付録6	調査参加者募集「チラシ」	165
付録7	趣旨説明書「ご協力してくださる方へ」	166
付録8	調査参加者同意書・調査員誓約書	167
付録9	調査員チェックリスト	168
付録10	男女平等参画局パンフレット	169
付録Ⅱ	参考資料	173
付録1	女性に対する暴力の撤廃に関する宣言（仮訳）	173
付録2	総理府「男女間における暴力に関する調査」（抄）	177
付録Ⅲ	調査参加者発言集	179
1	現在被害にあっている人へのメッセージ	179
2	社会に対する要望	184